

そう だい  
総 題 「この最も小さい者」

だいじゅうさんか しもべ きょうどうたい  
第13課 僕の共同体

こはま もりひろ  
小濱 守宏

いち あんそくにち ご ご こんしゅう  
1. 安息日午後：今週のテーマ

かみ したが もの あつ かみさま きょうどうたい きょうかい しんこう つよ まずひとびと ころろ きず  
神さまに従う者たちが集まる神様の共同体(教会)は、信仰によって強められて、貧しい人々、心が傷  
ついている人々に祝福を伝える働きをします。  
かみさま しんひとびと あつ もくてき せかい かみさま やさし ただ つた こうどう  
神様を信じる人々が集まる目的は、この世界に神様の優しささと正しさを伝え、行動することです。  
こんしゅう  
ここが今週のポイントとなります。

に にちようび へんか ししゃ  
2. 日曜日：変化をもたらす使者

かみさま きょうどうたい わたし ちきゅう てんごく だいひょうしゃ たいし かみさま にんめい でんどうかつどう ひと  
神様の共同体である私たちは、この地球に天国の代表者、大使(神様から任命され伝道活動をする人)  
として、派遣されています(使命を持って生かされています)。  
たいし かみさま にんめい でんどうかつどう ひと しごと きず かな ひとびと かみ あい きぼう しんこう  
大使(神様から任命され伝道活動をする人)の仕事は、傷つき、悲しんでいる人々に神の愛と希望と信仰  
をつた こと  
を伝える事です。  
かみさま しん わたし かみさま あい し きぼう あた  
神様を信じている私たちも、神様の愛を知って希望が与えられました。  
せんばい きょうかいいん かがた やさ ことば こま とき たす  
先輩の教会員の方々から優しい言葉をいただき、困っている時に助けてもらいました。  
なや とき はなし き  
悩んでいる時に話を聞いてもらいました。  
かみ あい すく き  
そして、神さまに愛され救われていることに気づきました。  
かみさま しん あつ かみさま きょうどうたい わたし い かた か  
神様を信じて集まる神様の共同体のメンバーになった私たちは、生き方が変わりました。  
おな かみさま し ひとびと やさ ことば なや ひと はなし き こと とお かみ たいし  
同じように神様を知らない人々に優しい言葉をかけ、悩んでいる人の話を聞く事を通して、神さまの大使  
(神様から任命され伝道活動をする人)として働きましょう。  
わたし かみ から えら たいし かみさま にんめい でんどうかつどう ひと  
私たちは、神さまから選ばれた大使(神様から任命され伝道活動をする人)なのです。  
かみさま したら しゆるい むすう かみ あた じぶん どりよく  
※神様の働きの種類は、無数に(とてもたくさん)あります。神さまに与えられたタラント(自分で努力し  
たのでなく神様から与えられた才能など)を用いましょう。

さん げつようび つか のこ もの  
3. 月曜日：仕える残りの者たち

かみさま さいご したが ひとびと かみさま きょうどうたい とくちょう  
神様の最後まで、従っていく人々(神様の共同体)には、特徴があります。  
かみさま おし したが さま おな あい ひとびと あた せいしつ さんこう もくしろく  
それは、神様の教えに従って、イエス様と同じ愛を人々に与える性質です。(参考：黙示録12:17)

モーセを例にして考えてみます。(出エジプト 3 2 : 1 - 1 4)

エジプトから脱出してカナンに向かう途中、いつもイスラエルの民は、不満ばかり言ってモーセを困らせました。

もしかするとモーセはいじめられていたかもしれません。

自分を攻撃してくる人に対して私たちは、優しくできるでしょうか？

モーセを見てみましょう。

神さまは、イスラエルの人々に呆れて、滅ぼそうと考えました。

しかし、モーセは、イスラエルの人々を愛していたので、神さまに訴えました。

もし、イスラエルの民を滅ぼすのであれば、

「このわたしをあなたが書き記された書の中から消し去ってください」(出エジプト 3 2 : 3 2)

モーセは、自分の永遠の命を諦められるほど、イスラエルの人々を愛していたのです。

神さまの共同体のメンバーは、神さまが私たちのために十字架にかかって身代わりとなり、救ってくれた事を覚えていてます。

だから、自分も神さまと同じように人を愛したくなるのかもしれない。

神さまの共同体のメンバーになった私たちは、神さまに愛されている実感がある(ととても感じる)ので人に優しく、神さまと同じ事をしたくなるのだと思います。

#### 4. 火曜日：人の心を動かす

人々にイエスさまを伝える証の力について学びます。

ホワイト夫人は、

「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。・・・貧しい者を助け、病める者を看護

し、・・・わたしたちは、泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜ぶべきである」

と語っています。(『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』1 2 8、1 2 9 ページ)

聖書や神さまの共同体(教会)の交わりを通して、毎日、神さまの愛に触れます。

愛されている喜びは、私たちが受けた心の傷や人を傷つけた罪悪から解放をもたらします。

神さまから与えられた平安は、ただ(無料)で頂きました。

マタイによる福音書10章7、8節「ただで受けたのだからただで与えなさい。」

という掟に自然と導かれ、イエスさまを伝える大きな証の力となります。

#### 5. 水曜日：教会の中の恵み

神様の共同体のメンバーである私たちが、行う事について学びます。

私たちは、神さまの共同体(教会)のメンバーなので「掟を守る」(黙示録12 : 17)事が大切で

す。

掟とは、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、

あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13 : 34)

です。

神様の共同体のメンバー一人ひとり、同じ性格ではありません。

静かな雰囲気が好きな人、にぎやかで明るい雰囲気が好きな人、皆違います。

同じ人は、一人もいません。

しかし、違いを理解するには、忍耐と愛が必要になってきます。

訓練しなければなりません。

神さまの掟を実践する(行う)ためにイエスさまに愛されている喜び(エネルギー)を頂き互いに愛し合います。

6. 木曜日：善行をするように励まし合うなぞ、互いに愛し合う必要があるのかについて学びます。

私たちは、神の国の大使(神様から任命され伝道活動をする人)として、任命を受けています。外に出て行って神様の国、天国の素晴らしさをつづつ伝える仕事を行なっています。

しかし、神さまの教えは、この世の中の考えとは、多くの違いがあります。

違いを受け入れるのは、困難(大変)であり、忍耐が必要になります。

ですから、私たちは、迫害されたり(追い詰めて苦しめられたり)、仲間外れになったりもします。

「互いに愛し合う」ように努力する時、沢山、心に傷を受けるでしょう。

だからこそ、神さまの共同体は、愛の関係、互いに愛し合い励まし合う必要があるのです。

まずは、自分から愛を示します。

7. 金曜日：さらなる研究

今週、共同体のメンバーである私たちが「イエスの手足、声、心として奉仕」(今週のガイド p 88) していく事を学びました。

共同体のメンバーは、「飢えた者に食を与え、裸の者に着せ、・・・キリストの愛は、悪人を改めさせるのに剣や法廷よりも力がある・・・」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』 p 88) 働きを神様から任されています。

この様な(「飢えた者に食を与え、裸の者に着せ、・・・キリストの愛は、悪人を改めさせるのに剣や法廷よりも力がある・・・」)奉仕をするためには、共同体が必要になります。

なぜなら、困っている人々に仕える時、身も心も疲れたり、八つ当たりを受けたり、心に傷を受けるからです。

その傷は、神様の共同体のメンバーである私たちが互いに愛し合い、支え合う事で癒されていきます。

私たちの所属している神様の共同体は、

「キリストの体、“霊”の共同体として、・・・召を受けています。『神は無秩序の神ではなく平和の神だからで

す。・すべての教会きょうかいでそうあるように』(今週こんしゅうのガイド p 9 2)  
びーきゅうじゅうに

と神様かみさまは、掟おきてをあたらせてくださいました。

掟おきては、私わたしたちに平和へいわをあたります。

私わたしたちは、掟おきてに従したがい、神様かみさまの共同きょうどう体のメンバはたらーとして働いていきます。